

テニス4大トーナメント観戦の旅 その7 全豪オープンテニストーナメント2019

原田義則（3組）

暇に任せて1年に1-2回程度のペースでテニスの4大トーナメントの観戦に行っています。

今回は3年振りに全豪オープンテニストーナメント（メルボルン開催）に家族と共に行って来ました。メルボルンは3回目なのですが、時差が小さい分、疲れも少なく気楽な旅です。

これまでの経験から錦織圭や大坂なおみの試合を確実にみるために、準決勝や決勝のチケットではなく、4回戦と準々決勝のセンターコートのチケットを予め入手して観戦に行きました。

幸運なことに、錦織も大坂も3回戦を突破しましたので、狙い通り彼らの試合を見ることが出来ました。錦織と大坂の他にもフェデラー（スイス）、ナダル（スペイン）、ジョコビッチ（セルビア）、セレナ（米）、シャラポア（ロシア）などの有名どころに加えて売り出し中のA.ズベレフ（ドイツ）、チチパス（ギリシャ）、メドベージェフ（ロシア）、シャポバロフ（カナダ）、バイテュー（オーストラリア）などの試合を間近で見ることが出来ました。

錦織（世界ランキング9位）は先立つトーナメント（ブリスベーン）で優勝してメルボルンに乗り込んできたものの調子は今一つ悪く、3回戦までは苦労して勝ち上がって来ました。4回戦はさらに大変でカレノ・ブスタ（スペイン、世界ランキング23位）相手に2セットを連続して落とし、第3セットでも何度も危機的状況に陥ったのですが奇跡的に続く3セットを連取して勝利。しかし疲労がひどく準々決勝では世界ランキング1位のジョコビッチと対戦して途中棄権して仕舞い、錦織のベスト4入りはなりませんでした。一方、大坂（世界ランキング4位）は世界ランキングの上位の選手を「破壊的」に破りました。その後、更にトップ選手二人を連破し優勝したことはご存知の通りです。このレベルの選手たちの打球音と俊敏性はとても人間業とは思えないレベルで、全く私のプレーの参考にはなりません、大いに楽しめました。

試合の間に大坂選手の練習を見に行きました。大坂選手は大勢の観客相手に実に気安く応対してくれて、幸運にもサインを貰うことが出来ました（その後、優勝したのでこれは家宝か?!）。

テニス観戦の他にも今回は「フェアリーペンギンのパレード」を見に行きま

した。夜になるとお腹一杯に魚を詰め込んだ数100羽の親ペンギンがよちよちと海岸から続く結構な急坂を上り、巣から出て来て親を呼ぶ子ペンギンに餌を与える様子を見るだけなのですが、その様子は滑稽でもあり、心温まる風景でもありました。

ところでメルボルンは中国からの団体客でごった返していました。オーストラリアとの経済的繋がりも強いらしく、あちこちに中国語の表示やアナウンスが溢れかえっていました。観光客のマナーは悪いようで、ペンギンを驚かすために撮影禁止とされているパレードで写真を撮り、大声（中国語）で制止する係員とやりあっている人もいたようです。

昨年3月で常勤の教員生活は終わりましたので、これからはトッププロの試合で習得したイメージトレーニングを最大限に活用しつつ、衰える体力と調和を取りながら思う存分テニスが出来そうです。

2019年1月31日記

次ページ以降に選手達のスナップ写真を掲載

会場内の一角にて



対戦中の錦織



練習中の大坂



フェデラー



ナダル



セレナ



シャラポア

